



2020年2月3日

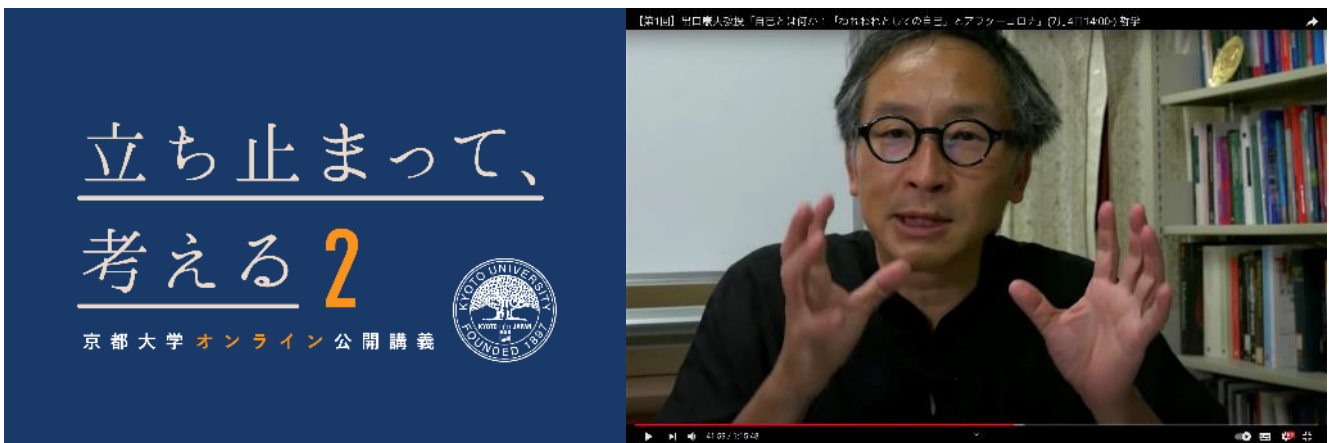
シリーズ累計32万回再生の無料オンライン講義、第2弾がついに始動

京都大学オンライン公開講義 “立ち止まって、考える” シーズン2

～コロナパンデミックの中、これからの生き方を人文社会科学の視点で考える～

国立大学法人京都大学（京都府京都市左京区、総長：湊 長博）・人社未来発信ユニットは、本学人文社会科学の特別講義を YouTube ライブにてリアルタイム・双方向・無料公開する講義シリーズ「京都大学オンライン公開講義“立ち止まって、考える” シーズン2を2021年2月7日（日）より実施します。

本講義シリーズではコロナパンデミックを共通テーマに据え、社会学・科学哲学・美学など様々な人文社会科学分野の教授陣が授業を展開します。YouTube ライブのチャット機能を通じて受講者とともにコロナパンデミックを論ずることで、新たな時代を生きるためのヒントとなる「座標軸」を社会に提供します。



公式 web サイト : <https://ukihss.cpier.kyoto-u.ac.jp/2313/>
 授業配信 YouTube : <https://www.youtube.com/channel/UCIEFeMhUfTbelvVWX8ZUaJQ>
 プロジェクトムービー : <https://youtu.be/TuN6S8y0liI>

「コロナ×人文社会科学」の YouTube ライブ講義が SNS で話題に

京都大学オンライン公開講義
“立ち止まって、考える” シーズン1の反響

 初回講義 リアルタイム視聴 15,600人 <small>(2日間/4授業合計)</small>	 累計視聴数 325,147回 <small>2020年7月20日～8月30日までに YouTube に公開した全28本の動画の再生回数の合計値 (2021年1月時点)</small>	 関連投稿 28,839ツイート <small>発信期間 (2020年7月1日～8月30日) に投稿された「京都大学 オンライン」「立ち止まって考える」などのキーワードから関連投稿を抽出</small>
--	---	--

本シリーズは2020年7月公開「京都大学オンライン公開講義“立ち止まって、考える”」の第2弾です。

シーズン1はメディアやSNSを通じて話題となり、初回のライブ配信講義はのべ15,600人がリアルタイム視聴し、講義期間は29,000近くのツイートがありました。また、現在でも視聴数は伸びており、YouTube再生回数はシリーズ累計約325,147回に達しています。

講義の概要・授業内容

名 称 : 京都大学オンライン公開講義「立ち止まって、考える」シーズン2
 期 間 : 2021年2月7日(日)～3月21日(日) 毎週土・日開講
 各日2回 各1時間(11:00～12:00, 14:00～15:00) ※時間割詳細は web サイト参照
 公式 Web サイト : <https://ukihss.cpier.kyoto-u.ac.jp/2313/>
 授業配信 YouTube : <https://www.youtube.com/channel/UCIEFeMhUfTbeIvVWX8ZUaJQ>
 プロジェクトムービー : <https://youtu.be/TuN6S8y0liI>

講義・講師紹介		京都大学オンライン講義「立ち止まって、考える。」Season2 [各講義:全2回予定]		#立ち止まって考える
科学哲学 科学哲学の観点からみた コロナをめぐる言説	文学研究科・准教授 伊勢田 哲治	文化遺産学 文化遺産が語る 人類と災禍(1)～(2)	文学研究科・教授 吉井 秀夫	
西洋哲学史 パンデミックから考える 権力と国家—フーコーからヘーゲルへ	文学研究科・教授 大河内 泰樹	文化遺産学 文化遺産が語る 人類と災禍(3)～(4)	文学研究科・助教 内記 理	
倫理学 会話と社交の倫理学	文学研究科・教授 水谷 雅彦	文化遺産学 文化遺産が語る 人類と災禍(5)～(6)	文学研究科・助教 富井 眞	
現代技術文化史 技術文化史から考える ポストコロナ社会	文学研究科・教授 喜多 千草	西洋美術史 人をつなぐものとしての美術 —前近代の西洋美術に注目して	文学研究科・教授 平川 佳世	
社会学 コロナ禍における 外国人住民と質的調査	文学研究科・准教授 安里 和晃	美学 「ふれる」ことの美学	文学研究科・准教授 杉山 卓史	

オンライン講義スケジュール		京都大学オンライン講義「立ち止まって、考える。」Season2		#立ち止まって考える									
2021年2月7日(日)～3月21日(日) [毎週土・日開講]		各日2回 / 各1時間(11:00～12:00, 14:00～15:00)											
	2月	3月											
	7(日)	13(土)	14(日)	20(土)	21(日)								
午前	科学 哲学 (1)	現代 技術 文化史 (1)	科学 哲学 (2)	現代 技術 文化史 (2)	-	文化 遺産学 (1)	-	文化 遺産学 (2)	-	文化 遺産学 (3)	文化 遺産学 (4)	文化 遺産学 (5)	文化 遺産学 (6)
11:00～ 12:00	伊勢田 准教授	喜多 教授	伊勢田 准教授	喜多 教授		吉井 教授		吉井 教授		内記 助教	内記 助教	富井 助教	富井 助教
午後	社会学 (1)	西洋 哲学史 (1)	社会学 (2)	西洋 哲学史 (2)	-	西洋 美術史 (1)	西洋 美術史 (2)	-	倫理学 (1)	美学 (1)	倫理学 (2)	美学 (2)	-
14:00～ 15:00	安里 准教授	大河内 教授	安里 准教授	大河内 教授		平川 教授	平川 教授		水谷 教授	杉山 准教授	水谷 教授	杉山 准教授	
※各講義、全2回の予定です。「文化遺産学」は3名の講師による連続授業となります。													

時間・空間の垣根を超えたオンライン講義による、新たな教育の可能性

「京都大学オンライン公開講義“立ち止まって、考える”」シーズン2は、2月7日（日）～3月21日（日）の毎週土・日、各日2回のオンライン講義を行います。全10名の本学人文社会科学分野の講師陣がそれぞれ1時間程度の授業を2回受け持ちます。講義はYouTubeライブを通じてリアルタイム配信され、どなたでも申し込みなしに無料で視聴することができ、さらにコメントを通じて質疑応答に参加することもできます。

- ・コロナパンデミックが共通テーマ

→今まさに向き合っている社会問題と新時代の生き方を受講者と共に考える講義。

- ・YouTubeで配信され、誰でも申し込みなしで無料参加できる。アーカイブ視聴も可。

→多くの人々が受講可能に。

また、年齢・住居・環境を問わず、誰でも大学の授業を受けることができる。

- ・YouTubeライブのチャット欄で気軽に質問やコメントが可能。

→“私語”を受講者全体で共有できる。

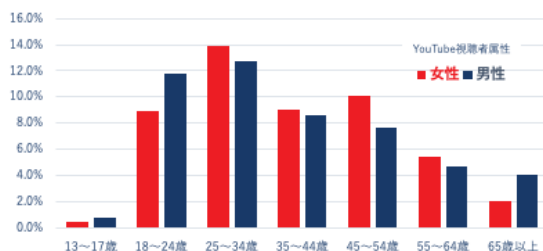
受講者同士で疑問を補い合い、さまざまな意見を気軽に論じることができるため
教授・受講者問わず、参加者全員で授業を作る形となる。

■働く現役世代を中心に男女問わず幅広い人々が受講。初回配信には延べ1万5600人が同時視聴
講義シリーズのシーズン1を通じて、オンライン配信の様々な可能性を垣間見ることができました。

1つ目の発見は、視聴者数と視聴者の多様性の拡大です。まず視聴者数について、初回のライブ配信講義では同時視聴者延べ数が1万5600人を超え(※)、本シリーズの累計再生回数は32万回に迫るなど、大変多くの方々に受講いただきました。

視聴者層は男女1:1で、44歳以下の比率が66%、ボリューム層は25～34歳の若い世代です。アーカイブ視聴を可能にしたことで、働く方や子育てをしている方などの時間の制約が多い方々にもご覧いただけていることがわかりました。地方在住の方々からの反響もあり、改めて時間・空間の垣根を取り払うオンライン配信での講義に可能性を感じます。

主な視聴者は **働く現役世代の男女**



視聴者の男女比 = **1:1**

44歳以下の比率が **66.1%** (男女合計)

※YouTubeのリアルタイム講義とアーカイブの合算

■チャット欄の開放により自由な議論が生まれ、受講者のコメントから新たに授業が展開

発見の2つ目は、チャット欄を開放することで、講義全体に活気が生まれたことです。チャットを通じて様々なバックグラウンドを持つ受講者が発言し、受講者同士で内容を補い合ったり、受講者のコメントに講師が言及することで新たに授業が展開したりする場面が多々ありました。チャット欄でのコメントの数は想像よりも遥かに多く、オンラインだからこそ、リアルでは躊躇しがちな質問や発言を気軽に行うことができたのだらうと感じています。

このようにリアルの間では“慎むべき私語”も、オンラインでは“自由な議論”となり、「講師が教え、受講者が教わる」だけではない双方向の授業を展開することが可能となりました。シーズン2においても引き続きオンライン講義の新たな可能性を探り、今後の教育のあり方を前向きに模索していきたいと考えています。



2月4日(木) 先行オリエンテーション開催！ 出口教授とシーズン1の登壇教授が対談

2月7日(日)の講義シリーズ開始に先立ち、オリエンテーションを2月4日(木)に開催します。

オリエンテーションでは、本講義シリーズを立ち上げた人社未来形発信ユニット長・出口康夫教授が、実施の背景やシーズン1を通じて感じたオンライン講義による知の共有の可能性について語ります。

また、特別ゲストとしてシーズン1およびシーズン2の講師が登壇します。シーズン1の講師からは児玉聡准教授(倫理学)、山本博之准教授(地域研究・メディア学)が出演し、出口教授とシーズン1を振り返ります。シーズン2の講師からは平川佳世教授(西洋美術史)、安里和晃准教授(社会学)が出演し、シーズン2への期待や意気込みを語ります。対談の後半では質疑応答も受け付けています。

名称 : 京都大学オンライン公開講義“立ち止まって、考える”オリエンテーション

日時 : 2021年2月4日(木) 19:00~

配信メディア : YouTube ライブ (<https://youtu.be/OGoxwDUfJrU>)

登壇 : 京都大学文学研究科・教授、人社未来形発信・ユニット長 出口康夫

ゲスト : <シーズン1 登壇講師>

・京都大学文学研究科・准教授 児玉聡 (倫理学)

・京都大学東南アジア地域研究研究所・准教授 山本博之 (地域研究・メディア学)

<シーズン2 登壇講師>

・京都大学文学研究科・教授 平川佳世 (西洋美術史)

・京都大学文学研究科・准教授 安里和晃 (社会学)

様々な境遇の人々と共に現代社会の問題と未来の社会のあり方を考える、21世紀型教養

人社未来形発信ユニットは2018年に設立され、**京都大学**、ひいては**日本の人文社会科学を広く世界に、社会に発信するために活動しています**。特に、狭い専門知の枠に閉じこもらず、社会課題に対して積極的に発言し、解決へのヴィジョンを提示する「**提案する人文・社会科学**」としての役割を果たすことを重視しています。

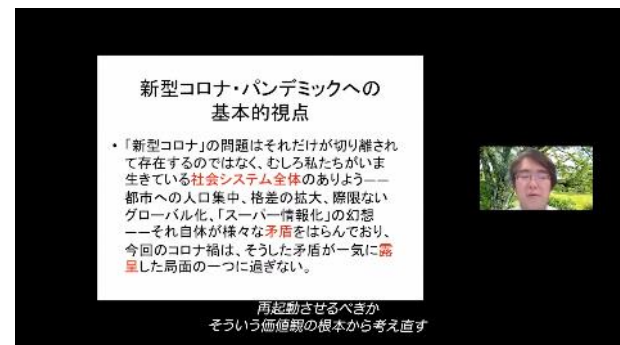
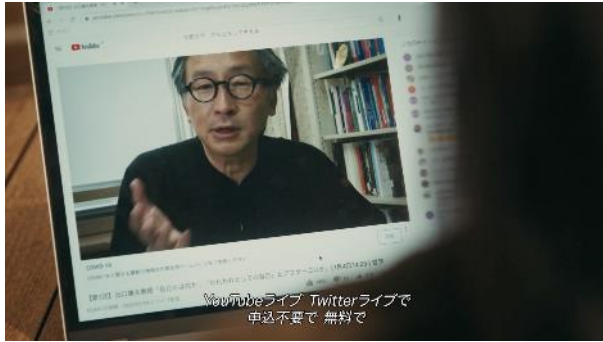


京都大学
人社未来形発信ユニット
ユニット長 出口康夫

2020年からは、コロナパンデミックの中、これからの私たちの**社会のあり方について、より広く、より深く考えるための「価値の座標軸」を社会全体で共有すべく、特別企画「立ち止まって、考える」**をスタートさせました。7月から8月にかけて行われたオンライン公開講義シリーズは、大学で従来行われてきた社会発信では考えられないほどの大きな反響をいただきました。私たちは、困難な社会状況の中で人文・社会科学に対して寄せられる期待の大きさに改めて襟を正すとともに、ここに、**21世紀型の新しい教養の可能性**を感じ取っています。

時間的なスパンを長くとり、物事を深く掘り下げて考えようとする人文・社会科学が依拠するのは、これまで何世紀もかけて人類が生き育ててきた「人類知」の分厚い蓄積です。このような「人類知」の真価は、大学という閉ざされた空間においてではなく、社会に向かって開かれ、リアルタイムの現実と切り結ぶ場面でこそ発揮されます。そして、コロナ禍によって加速したオンライン化が、そこにさらなるダイナミズムをもたらしています。前期のオンライン講義シリーズで示されたのは、一方向的な「教える-教わる」関係にもとづいた知識伝達ではなく、「**人類知**」を踏まえた**人文・社会科学が、インターネットを通じて対話的、双方向的に自己更新していく姿**でした。今回のシリーズでも、このような**新しい形の知の創発を、「21世紀型教養」として、受講者のみなさんと一緒に作り上げ、共有したい**と考えています。





画像：プロジェクトムービー (<https://youtu.be/TuN6S8y0liI>) より